

平成29年3月発行



北海道子ども読書応援団ニュース

No. 1 1

ゆめ*よみ

編集担当

北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課

社会教育・読書推進グループ

TEL: 011-204-5994

FAX: 011-232-2236

北海道子ども読書応援団について～171団体が登録！

北海道子ども読書応援団（以下、応援団）は、平成19年度に北海道子ども読書活動推進実行委員会の設置により結成されました。昨年度からは、実行委員会及び規約を廃止し、新たに応援団を北海道教育委員会の事業として位置付け、読書ボランティアバンクとしての機能に重点を置いた活動を行うことにしました。

平成28年12月現在、171の登録団体が道内各地で活動されています。登録団体の皆様には、これまでの御理解と御協力に厚くお礼申し上げますとともに、今後も引き続き、道内の子どもたちの読書活動の推進に御尽力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

各地の子ども読書応援団の取組紹介

絵本を身近に感じてほしい

布遊具・布絵本製作サークル「ぶちパンプキン」（秩父別町）

本サークルは、子どもたちの豊かな心を育み、本を読む楽しさを広めることを目的に、平成19年1月に誕生しました。現在の会員数は7名、町の図書館や小学校・認定こども園での人形劇の公演、学校の昼休み時間を利用した絵本の読み聞かせ、低学年に向けた大型紙芝居、アニメーション等を取り入れた出前公演を実施し、秩父別町の子どもたちの読書活動の推進に大きく貢献しています。

また、作品を通じて手作りの温もりやお話の楽しさを身近に感じてほしいという願いから、長年にわたり、布遊具や布絵本などを自ら製作しています。こうした取組が評価され、平成27年度に、空知管内教育実践表彰を受賞しました。



本と人との出会いの場

NPO法人あそぶっくの会（ニセコ町）

図書館機能を備えた町民の憩いの場であるニセコ町学習交流センター「あそぶっく」は、平成15年にオープンし、「NPO法人あそぶっくの会」が指定管理者として施設の管理や運営をしています。

ニセコ町学習交流センター「あそぶっく」は町の中心部に所在しており、毎日、多くの町民が利用しています。絵本コーナーには、小さなお子さんといっしょに絵本を見るお母さん、麦茶がある雑誌コーナーではバスを待っている人やお買い物帰りにひと休みされている人、午後には、宿題や本を探したり、保護者との待ち合わせをする子どもたちがたくさんやってきます。毎週木曜日は「あそぶっくらぶ」で、工作やカード作りを楽しんでいます。

「NPO法人あそぶっくの会」は、図書館の管理・運営と図書ボランティア活動を活発に行っています。乳幼児検診や老人ホームへの訪問など、幅広い年齢の方々と絵本やお話を中心に交流をしています。布絵本や貸し出しバック作りなどの手芸でお手伝いするグループや、朗読を楽しむグループ等があります。現在、会員やボランティアとして活動していただける仲間を募集中です。



読み聞かせを行うあそぶっくの会員と真剣な表情のニセコの子どもたち

壮瞥町の読書応援団

読み聞かせボランティア「ひだまりの会」（壮瞥町）

壮瞥町の読み聞かせボランティア「ひだまりの会」は平成11年に設立し、活動が始まりました。「ひだまり」という名前は、「春のひだまりのようなあたたかいイメージの中で活動ができたらいいね」という思いでつけられました。現在の会員数は10名で、町内の小学校や育児サークル、特別養護老人ホームで毎月1回、読み聞かせを実施しています。読み聞かせは絵本や紙芝居だけでなく、会員手作りのパネルシアターや人形を使って劇を行ったりもします。また、会のマスコットガール（手作り人形）「ひなこちゃん」が毎回登場し、始まりの挨拶もしてくれます。壮瞥町の子どもたちに本を好きになってもらい、豊かな気持ちをもたせたいという思いで、日々、活動を行っています。



子どもの成長と親子のふれあいをサポート

読み聞かせの会「びっくり箱」(新冠町)

新冠町の読み聞かせの会「びっくり箱」は、昭和56年に活動を開始しました。

乳幼児の親子や小学校低学年の児童を対象とした絵本の読み聞かせを中心に、人形劇、紙芝居、手作り大型絵本の読み聞かせなど、多彩なメニューをとおして、子どもたちの健やかな成長や親子のふれあいの場を提供しています。

このような長年の取組から、平成20年に文部科学大臣表彰「子どもの読書活動優秀実践団体」、平成23年に「ほっかいどう子育て応援大賞」、平成24年に内閣府「チャイルドユースサポート賞」を受賞しています。

毎月2回、新冠町レコード館図書プラザで開催される「おはなし会」のほか、町内の小学校や放課後子ども教室、通学合宿でも読み聞かせを実施するなど、新冠町の子どもの読書活動の推進に大きく貢献している団体です。



通学合宿事業での読書プログラム



放課後子ども教室での読み聞かせ

本のすばらしさを伝える

絵本読み語りグループ マシュマロ (函館市)

1月25日(水)中休み、函館市立鍛神小学校のある教室に1年生児童がぞくぞくと集まってきた。お目当ては、「マシュマロ」の読み聞かせ。

この日は、代表の丸藤さんと岡本さんが読み聞かせを担当。岡本さんが「冬休みは楽しかった？」などと語りかけ、子どもたちがリラックスしたところで、『バナナじけん』の読み聞かせを開始。登場人物が滑ると滑るポーズをする子どももいて、絵本の世界に引きこまれていった。

2冊目は、『びっけやまのおならくらべ』。子どもたちはみんなニコニコ顔で、おならの音が読まれる度に大喜び。10分ほどの読み聞かせは、アツという間に終わった。子どもたちは、二人にお礼を言うと、「おもしろかった!」「たのしかった!」と、感想を言いながら、自分の教室に戻っていった。

子どもたちに楽しい時間を提供してくれた「マシュマロ」は、現在会員14名で、函館市内の小学校、保育園・幼稚園等で年間500回以上の読み聞かせ会を実施し、子どもたちに本のすばらしさを伝える活動を続けている。また、新たな取組として、「朗読と音楽とのコラボレーション」、大人向けの「素話会」、「朗読会」にも力を入れ、地域の読書活動の推進に大きく貢献している。



ポコ・ア・ポコ（和寒町）



図書館ロビーにある「ゆめの箱」と題した大きなレリーフ。本がぎっしり並ぶ本棚をイメージした夢と希望がいっぱいのレリーフです。そして、子どもがこの「ゆめの箱」を開けるお手伝いをしているのが、ボランティアグループ「ポコ・ア・ポコ」のみなさんです。

ポコ・ア・ポコは平成6年より、月1回おはなし会や季節のイベント会、ブックスタート事業への協力などを行っています。これまでも、「イースター会」や「ピクニックおはなし会」など次々に趣向を凝らした催しを実施してきましたが、中でも毎年行われる「夏まつり」や町教育委員会職員を交えて実施される「クリスマス会」は大人気！会場にはいつも子どもたちの元気な笑顔と好奇心に輝いた目、そして、お友だちと驚きや感動を共有する喜びにあふれています。

こうした活動が評価され、平成23年には北海道優良読書グループ表彰、翌年には町より感謝状も贈られています。

今後も読み聞かせを通して地域に根差した子どもたちの読書活動を応援し、子どもたちの成長を見守っていくボランティアグループとして、活動をつなげていきたいと思えます。



絵本といっしょ、みんなといっしょ

おはなしポケット（津別町）

津別町の「おはなしポケット」は、町内の読み聞かせ実践者を講師とした公民館講座を実施したことがきっかけとなり、講座参加者により平成19年に結成されました。絵本の読み聞かせや紙芝居の読み方をはじめとして、エプロンシアターやパネルシアター、ペープサートや手遊びなど、講座で学んだことをサークル活動に活かしています。

子どもたちを対象とした公民館でのお話し会（毎月1回開催）を活動の中心とし、高齢者施設や子ども園にも出かけています。また、通学合宿時の読書活動支援や正月遊び体験、もちつきの支援を行うなど、読書活動を中心としながら、依頼に応じて様々な活動を行っています。

発当初小学生の参加が多かったお話し会は、最近では幼児とその保護者が中心となってきており、子育て中の母親が熱心に手遊びを覚えようとしていたり、父親の参加が増えてきているなど、時代の変化を感じつつもうれしいことが多いそうです。

今後も、読書の大切さや絵本のよさを伝えながら、子どもたちのために活動を充実させていきたいということです。



絵本の楽しさ・笑顔を届けるおはなし会

よみきかせの会☆星の子（白糠町）

白糠町の「よみきかせの会☆星の子」は、“0歳から100歳までのおはなし会”を合言葉に町内の保育園や幼稚園、小学校、デイサービスなど様々な施設でおはなし会を行っています。

毎月第3土曜日には、児童館と公民館図書室で「ほしのこ☆おはなし会」が開かれ、心待ちにしている子どもがたくさんいます。幼い頃おはなし会に参加した人たちが親となり、我が子を持って参加するなど、地域に根つき親しまれる存在となっています。

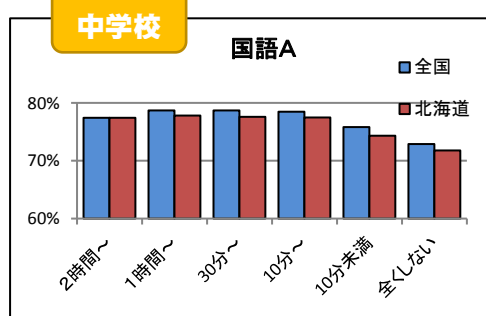
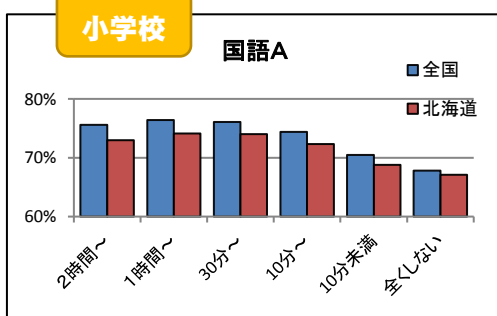
平成25年には創立30周年を迎え、画家・絵本作家である長谷川知子さんの講演会を開催しました。絵本に込められた作者の思いを知り、絵本の良さや楽しさを発信するとともに、新たな視点で絵本を見つめるきっかけを提供しました。また、公民館図書室の「秋のヨムヨムフェア2016」では、いつもおはなし会に参加する小学生が読み聞かせに挑戦する活動を取り入れるなど、読書好きな子どもたちを育てる上で大きな役割も果たしています。代表の鍛冶さんは、

「今後、学校の先生方にも本をより好きになってもらい、子どもたちに発信してもらえる活動を行っていきたい」と話していました。「よみきかせの会☆星の子」がおはなし会を通して笑顔をお届けしていくことを、たくさんの人たちが楽しみにしています。



読書をする子どもほど、正答率が高い傾向に！

「学校の授業時間以外に、普段、1日あたり10分以上読書をする」子どもの方が、小中学校とも、平均正答率が高い傾向にあります。



「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書しますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」平成28年度全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙より

◆お願い◆

読書応援団に関する特色ある活動や様々な実践、研修会の案内などの情報をお寄せください。また、今後も引き続き、読書応援団を募集しています。

北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課社会教育・読書推進グループ

TEL 011-204-5994 FAX 011-232-2236

北海道子どもの読書活動推進ホームページ

<http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/sgg/move/dokusyo/dokusyoindex.htm>